

# I. 日高市の現況

## 1. 位置及び地勢

埼玉県南西部に位置する本市は、東京都心から約 40km 圏内にあり、東は川越市、南東は狭山市、南は飯能市、北は坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町の 5 市 1 町に接している。

市域は東西 11.1km、南北 6.0km、面積は 47.48km<sup>2</sup>、標高中央部は 73m、東経 139 度北緯 36 度に位置している。

地勢としては、西部に日和田山をはじめとする山々があり、東部は武蔵野台地が広がっている。また、正丸峠付近を水源とする高麗川は日高市に入り東に流れ、途中で北東に流れを変え、坂戸市を経て越辺川に合流している。

交通は一般国道 407 号、299 号、主要地方道 3 路線、一般県道 4 路線が縦横に走っている。また、首都圏中央連絡自動車道が供用開始し、東名、中央、関越、東北の各高速道路にアクセスできる。鉄道は中央部に JR 八高線、東部に JR 川越線、西部に西武池袋線が通っている。東京都心まで 1 時間あまりの立地条件でありながらも、自然に恵まれた首都圏近郊の住宅都市として発展してきた。



図 I-1 日高市位置図

## 2. 人口・世帯数の動向

本市の人口は、平成 18 年以降宅地開発などが進み、平成 23 年まで増加傾向が続いたが、それを境に減少傾向が見られる。住民基本台帳に基づく人口は、平成 18 年 4 月の 54,901 人から平成 27 年 4 月の 57,165 人と、2,264 人、4.1%増加している。

一方、世帯数は平成 18 年の 19,912 世帯から、平成 27 年には 23,318 世帯と 10 年間で 3,406 世帯増加している。

1 世帯あたりの平均世帯人員は、平成 18 年では 2.76 人であったが、平成 27 年には 2.45 人と大きく減少し、核家族化が進行している。

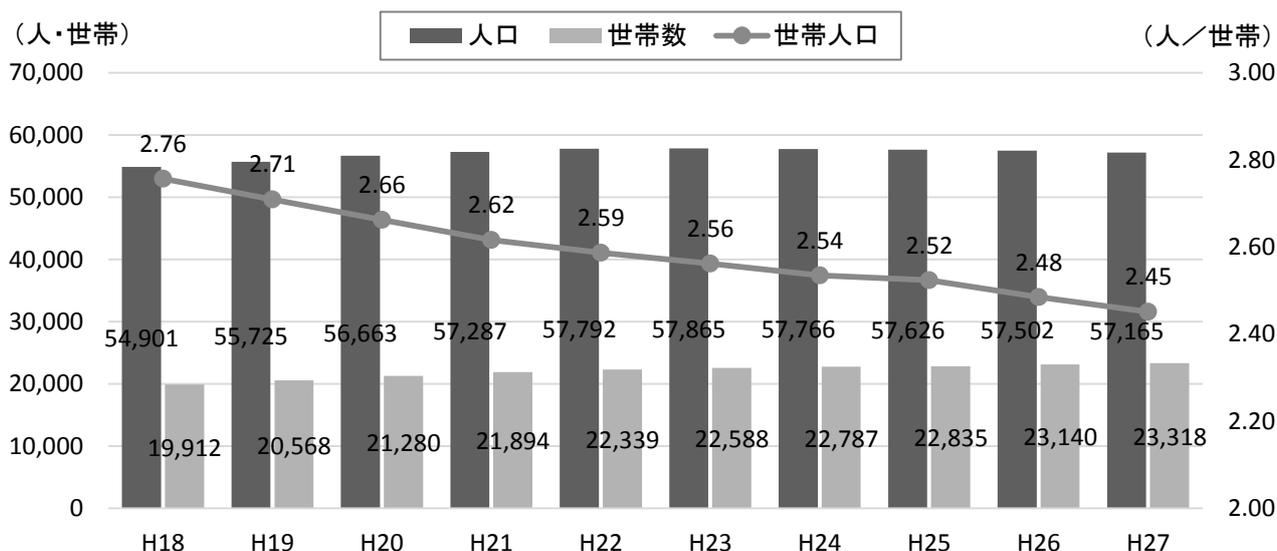


図 I-2 人口・世帯数の推移

資料：「統計ひだか」（各年 4 月 1 日現在）

表 I-1 人口・世帯数の推移

|                | H18    | H19    | H20    | H21    | H22    | H23    | H24    | H25    | H26    | H27    |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 人口<br>(人)      | 54,901 | 55,725 | 56,663 | 57,287 | 57,792 | 57,865 | 57,766 | 57,626 | 57,502 | 57,165 |
| 世帯数<br>(世帯)    | 19,912 | 20,568 | 21,280 | 21,894 | 22,339 | 22,588 | 22,787 | 22,835 | 23,140 | 23,318 |
| 世帯人口<br>(人/世帯) | 2.76   | 2.71   | 2.66   | 2.62   | 2.59   | 2.56   | 2.54   | 2.52   | 2.48   | 2.45   |

資料：「統計ひだか」（各年 4 月 1 日現在）

### 3. 産業動向

本市の昼夜間人口比率は92.0%(平成22年国勢調査)と東京圏のベッドタウンという性格が大きいですが、利便性の高い交通網を活用した製造業の進出もあり、事業所従業員の30%以上が製造業に従事している。

この間、本市製造業の出荷額は、変動を繰り返しつつ、平成18年の約1,400億円に対し、平成25年には1,600億円程度にまで増加している。

表 I-2 日高市の事業所

|                 | 事業所数  |        | 従業者数   |        |
|-----------------|-------|--------|--------|--------|
|                 |       | 構成比    |        | 構成比    |
| 全産業(公務を除く)      | 1,847 | 100.0% | 20,193 | 100.0% |
| 農林漁業            | 10    | 0.5%   | 47     | 0.2%   |
| 建設業             | 301   | 16.3%  | 1,214  | 6.0%   |
| 製造業             | 285   | 15.4%  | 6,425  | 31.8%  |
| 電気・ガス・熱供給・水道業   | 4     | 0.2%   | 50     | 0.3%   |
| 情報通信業           | 15    | 0.8%   | 340    | 1.7%   |
| 運輸業、郵便業         | 73    | 4.0%   | 1,603  | 7.9%   |
| 卸売業、小売業         | 377   | 20.4%  | 3,491  | 17.3%  |
| 金融業、保険業         | 11    | 0.6%   | 146    | 0.7%   |
| 不動産業、物品賃貸業      | 92    | 5.0%   | 350    | 1.7%   |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | 63    | 3.4%   | 171    | 0.9%   |
| 宿泊業、飲食サービス業     | 191   | 10.3%  | 1,975  | 9.8%   |
| 生活関連サービス業、娯楽業   | 136   | 7.4%   | 1,099  | 5.4%   |
| 教育、学習支援業        | 60    | 3.3%   | 410    | 2.0%   |
| 医療、福祉           | 103   | 5.6%   | 1,873  | 9.3%   |
| 複合サービス業         | 10    | 0.5%   | 90     | 0.5%   |
| その他             | 116   | 6.3%   | 909    | 4.5%   |

資料：「平成24年経済センサス-活動調査」

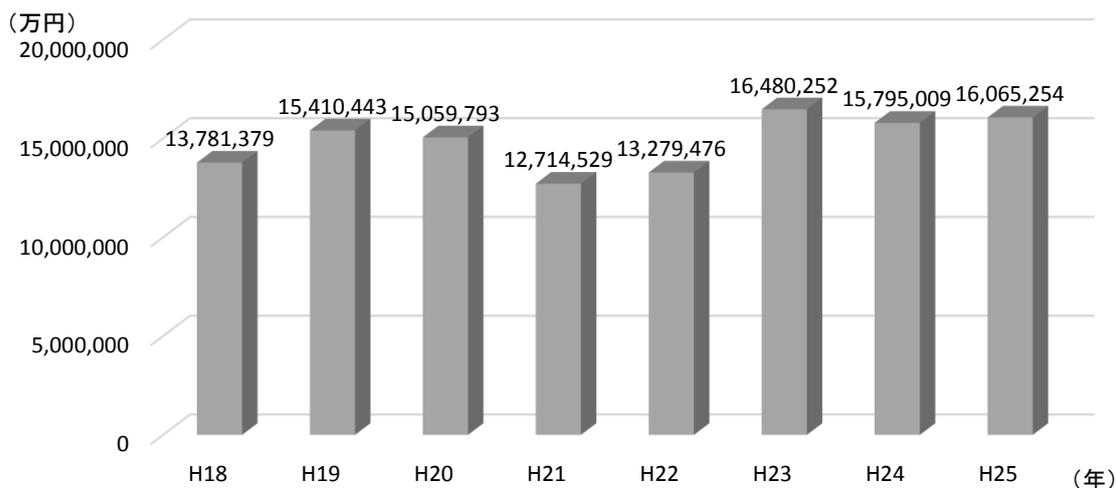


図 I-3 製造業出荷額の推移

資料：H18～H22、H24、H25は「工業統計調査」、H23は「平成24年経済センサス-活動調査」

#### 4. 土地利用

本市の土地利用状況の変化を見ると、都市化の進展に伴い、農地（田、畑）が減少し、宅地や雑種地が増加傾向にあります。

市街化区域約 640ha、市街化調整区域約 4,110ha が指定されており、市街化区域には、用途地域が指定され、住居系用途地域として、約 512ha で土地区画整理事業などによる整然とした街並みが整備されつつある。その他工業系用途地域として約 108ha や商業系用途地域として約 18ha が指定されている。

一方、市街化調整区域では、日和田山周辺の山林が、県下でも有数の豊かな自然を残す奥武蔵自然公園の一角をなしており、市民のやすらぎの場として大切な役割を果たしている。農地については、既存集落と相まって落ち着いた空間を形成しているものの、遊休農地や未利用地が増加傾向にある。

また、住居系及び工業系の用途に限定した一部地域における土地利用の規制の緩和を実施し、特に圏央道インターチェンジ周辺については、交通の利便性が高い特性から、工業系地域としての土地利用が進められ、今後も企業の立地ニーズは高まっていくものと予想され、そのポテンシャルを生かした土地利用が進められている。

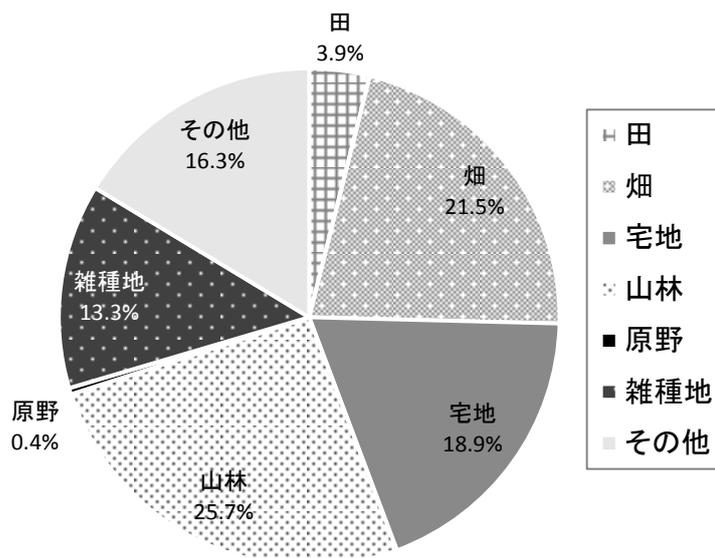


図 I-4 日高市の土地利用面積割合

資料：「統計ひだか」（平成 27 年 1 月 1 日現在）